

鮫島整形外科医院

様式

事業計画書（単独支援給付金）

鹿児島県知事 殿

単独支援給付金の支給を受けたいので、下記のとおり事業計画書を提出します。

また、下記3の「支給申請に関する誓約事項」について誓約します。

1. 申請者の情報

申請年月日		2021 年 6 月 29 日	
フリガナ	サメシマセイケイゲカイイン	〒 893 - 0014	
医療機関の名称	鮫島整形外科医院	医療機関の 住所・所在地 鹿児島県鹿屋市寿一丁目1番1号	
フリガナ	イリョウホウジンケイジンカイ リジチョウサメイシマサダヒト	職・氏名	事務長 福元
開設者 <small>(代表者の職・氏名も記載)</small>	医療法人恵仁会 理事長 鮫島 貞仁	電話番号	0994-43-2535
		ファクシミリ	0994-43-2576
		電子メール	kiortho@po4.synapse.ne.jp

2. 支給申請額

支給申請額(千円)	28,728
-----------	--------

3. 支給申請に関する誓約事項

- (1) 本給付金に関する報告や調査について、厚生労働省又は県から求められた場合には、これに応じます。
- (2) 本給付金の給付後、以下の①から③に該当した場合は、本給付金の全額又は一部を返還します。
- ① 単独病床機能再編計画に記載の内容について達成が見込めなくなった場合
 - ② 給付金の支給を受けた日から令和8年3月31日までの間に、同一の構想区域に開設する医療機関において対象3区分の許可病床数を増加させた場合（ただし、特定の疾患に罹患する者が多くなる等の事情により、厚生労働大臣及び都道府県知事が特に認める場合に許可病床数を増加させる場合はこの限りではない。）
 - ③ 申請内容を偽り、その他不正の手段により給付金の支給を受けたと認める場合
- (3) 暴力団等の反社会的勢力又は反社会的勢力と関係を有しておりません。

(添付書類)

- ① 病床稼働率算出の根拠となる平成30年度病床機能報告の写し又は令和元年度の病床機能報告の写し等
- ② 地域医療構想を達成するために必要な病床数の削減であることの説明書（別添「単独病床機能再編計画書」）
- ③ 過年度に申請した単独支援給付金支給申請書兼口座振込依頼書の写し（過年度に「令和2年度病床機能再編支援補助金における令和2年度地域医療構想を推進するための病床削減支援給付金」又は「地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業のうち単独支援給付金支給事業」により支給を受けている場合に限る。）

■支給申請額算定シート

1	再編前の稼働病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分(※3)の合計
	① 平成30年度病床機能報告				32		32	32
	② 令和2年4月1日時点(※1)				32		32	32
	③ 再編前病床数=②(※2)	0	0	0	32	0	32	32

- ※1 各機能ごとの数値については、地域医療構想調整会議にて確認されていること。
令和2年4月1日時点で病床数の変化があった場合は、変更前の病床数を記載すること。
平成30年度病床機能報告から令和2年4月1日までの間に、病床数の変更がない場合は、①と同じ値を記載すること。
- ※2 ①平成30年度病床機能報告時又は②令和2年4月1日時点の対象3区分合計のいずれか少ない方を基準とする。
- ※3 対象3区分=高度急性期、急性期、慢性期(以下同様)

2	再編後の許可病床数 (=再編後の稼働病床数)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	合計	うち対象3区分の合計
				19		0	19	0

3	他の医療機関との病床融通数 (※4)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	対象3区分の合計
	うち同一開業者の医療機関との病床融通数					0
						(0)

- ※4 病院統合や地域医療連携推進法人の病床融通制度等を活用し、他の医療機関から病床の融通を受けた場合はマイナス表記、病床を融通した場合はプラス表記とすること。
また、「(参考) 病床融通に関する概要」シートに関連する医療機関の病床数を記載すること。

4	対象3区分から 回復期又は介護医療院へ 転換した病床数	回復期	介護医療院	合計
		19		19

5	減少病床数 (1の③-2)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
		0	0	▲19	32	0	13	32

6	過去に 令和2年度病床機能再編支援補助金 及び本事業で支給済の病床数	支給済病床数	5.減少数	4.うち転換数	6.支給済数	3.うち他院への 融通数	支給対象
		0	32	19	0	(0)	13

7	再編前の許可病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
	① 平成30年度病床機能報告				32		32	32
	② 令和2年4月1日時点(※5)				32		32	32

- ※5 平成30年度病床機能報告から令和2年4月1日までの間に、病床数の変更がない場合は、①と同じ値を記載すること。

8	対象3区分の病棟の 年間在棟患者延べ数(人)	高度急性期	急性期	慢性期	合計
	① 平成30年度病床機能報告(※6)			10,401	10,401
	② 令和2年4月1日時点(※7)				0

- ※6 対象3区分の病棟に係る平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)の(48)欄の数値を計上すること。なお、平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)において、「過去1年間の間に病棟の再編・見直しあり」と報告した病棟の年間在棟患者延べ数については、以下の式により補正して計上すること。

○ 補正後の年間在棟患者延べ数 = 年間在棟患者延べ数(48)欄に記載された数値 ÷ 報告可能な対象期間(月単位) × 12

(注) 報告可能な対象期間(月単位)は、平成30年度病床機能報告で報告した月数とすること。

例) 報告可能な対象期間を「平成29年7月1日～平成30年12月末日」とした場合 ⇒ 報告可能な対象期間(月単位) = 6

- ※7 7の①と7の②の値が同じ場合は8の②の入力は不要。

9	<選択>	対象3区分の病床稼働率	一日平均実働病床数	適用
	A 平成30年度病床機能報告	89.0%	28	
	B 令和2年4月1日時点	0.0%	0	

10	再編前の対象3区分の稼働病床数 から一日平均実働病床数までの減 少分に係る支給額	単価(千円)	病床数	支給額(千円)
		2,052	4	8,208

11	一日平均実働病床数から再編後の 対象3区分の許可病床数までの減 少分に係る支給額	単価(千円)	病床数	支給額(千円)
		2,280	9	20,520

要件 審査	90%減少チェック	○
----------	-----------	---

12	支給申請額(千円)	28,728
----	-----------	--------

(別添)

単独病床機能再編計画書

作成日：令和3年6月29日

医療法人 恵仁会 鮫島整形外科医院

1 本事業にかかる単独病床機能再編医療機関の概要

医療機関名称	鮫島整形外科医院
開設主体	医療法人恵仁会
所在地	鹿児島県鹿屋市寿一丁目1番1号
構想区域	肝属
許可病床数	総許可病床数32床 慢性期32床 休棟0床
稼働病床数	総稼働病床数32床 慢性期32床 休棟等0床
1日あたり患者数 (稼働率)	入院患者数 28人/日(89%) 外来患者数 96人/日
標榜診療科	整形外科, リウマチ科, リハビリテーション科
職員数	46人
(医師)	4人
(看護職員)	31人
(専門職)	7人
(事務職員)	4人

2 構想区域における現状と課題

①病床の機能分化・連携の推進

・病床機能報告と将来の病床の必要量(必要病床数)とを比較すると、高度急性期及び回復期の機能が不足している。

・脳卒中、急性心筋梗塞については圏域内で医療需要に高い割合で対応できている一方、がんについては約3割が鹿児島医療圏へ流出していることから、今後も地域がん診療連携拠点病院である県民健康プラザ鹿屋医療センター等を中心に、連携強化を図る必要がある。

・病床の機能の分化・連携を促進するために、地域医療構想調整会議において各医療機関の役割分担及び連携のあり方を明確化し、不足すると見込まれる機能の充実を図るとともに、再編、集約も視野に入れた医療機能強化を検討していく必要がある。

②在宅医療・介護連携の推進

・市町を中心とした地域包括ケアシステムの構築を推進する中であって、今後増加が見込まれる在宅医療の需要に対応するためには、訪問診療や訪問看護等の在宅医療提供体制を充実させるとともに、医療・介護の連携の視点に立った医療・介護基盤の整備など、在宅医療提供体制の充実を図ることが求められる。

③医療従事者の確保と資質の向上

・医療従事者について、本県では特に医師及び歯科医師が鹿児島保健医療圏に集中していることもあり、圏域では医師、歯科医師及び薬剤師の数（人口10万対比）が国及び県を下回っている。

3 病床機能再編計画の概要

（地域医療構想の実現に向け必要な取組であることを示す内容とすること）

肝属保健医療圏における2018年病床機能報告調査時点で療養病床は638床となっており、2025年における病床の必要量は596床であるため削減する必要がある。

また、2016年の医師数・歯科医師・薬剤師調査での医師数は人口10万人当たり191.9人であり、国251.7人、県272.5人を下回っており、医師確保が厳しい現状がある。当院においても医師確保に苦慮している現状がある。

当院は平成30年度の病床機能報告では32床の療養病床で慢性期機能を担っているとの報告をしている。当院は総合的に判断して、慢性期の療養病床32床を、回復期機能を持った有床診療所19床に再編することで、地域の慢性期機能の病床数を削減し、回復期機能を持った病床を増加させることになるので、地域医療構想の実現に寄与できると考える。

①病床の機能分化・連携の推進について

不足している回復機能病床を確保できる。

高度急性期機能、急性期機能を持った医療機関との連携を推進できる。

②在宅医療・介護連携の推進について

訪問リハビリテーション・訪問看護を行い、在宅医療提供体制を充実できる。

通所リハビリテーションを行い、医療・介護基盤の整備ができる。

③医療従事者の確保と資質の向上について

有床診療所にすることで、当院の2名の常勤医師で対応が可能となる。

当院の必要医師数が減ることで、地域の他の医療機関での医師確保に貢献できる。

平成30年7月1日時点 （平成30年度病床機能報告）	機能	許可病床数	稼働病床数
	高度急性期	床	床
	急性期	床	床
	回復期	床	床
	慢性期	32床	32床
	休棟等	床	床
	病床数合計	32床	32床



平成 30 年 7 月 1 日時点から
下記移床・転換がある場合に記入

令和元年度 病床機能報告 (令和元年 7 月 1 日時点)	機能	許可病床数	稼働病床数
	高度急性期	床	床
	急性期	床	床
	回復期	床	床
	慢性期	3 2 床	3 2 床
	休棟等	床	床
	病床数合計	3 2 床	3 2 床

同一開設者の医療機関への 病床融通数	介護医療院への転換数
床	床
床	床
床	床
床	床
床	床
床	床



令和元年 7 月 1 日時点から
下記移床・転換がある場合に記入

令和 2 年 4 月 1 日時点	機能	許可病床数	稼働病床数
	高度急性期	床	床
	急性期	床	床
	回復期	床	床
	慢性期	3 2 床	3 2 床
	休棟等	床	床
	病床数合計	3 2 床	3 2 床

同一開設者の医療機関への 病床融通数	介護医療院への転換数
床	床
床	床
床	床
床	床
床	床
床	床



令和 2 年 4 月 1 日時点から
下記移床・転換がある場合に記入

病床機能再編完了時点	機能	許可病床数	稼働病床数
	高度急性期	床	床
	急性期	床	床
	回復期	1 9 床	1 9 床
	慢性期	床	床
	休棟等	床	床
	病床数合計	1 9 床	1 9 床

同一開設者の医療機関への 病床融通数	介護医療院への転換数
床	床
床	床
床	床
床	床
床	床
床	床

4 具体的計画について

単独病床機能再編後の診療体制

今後は、地域の医療機関との連携を強化し、リハビリテーションの提供を中心とした医療提供体制を構築する。

入院は、高度急性期病院、急性期病院との連携により、急性期治療が終わった患者を受け入れ、リハビリテーションを中心に医療提供を行う。

外来は、運動器リハ、脳血管リハ等でのリハビリテーションを行う。

介護事業としては、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの提供を行う。

医療機関名称	鮫島整形外科医院	
構想区域	肝属保健医療圏	
許可病床数	19床	
区分ごとの病床数	高度急性期	床
	急性期	床
	回復期	19床
	慢性期	床
標榜診療科	整形外科, リハビリテーション科, リウマチ科	

単独病床機能再編完了予定年月日

令和2年6月1日に32床の慢性期機能を持った病院から、19床の回復期機能を持った有床診療所として再編は完了している。

単独病床機能再編完了予定年月日	令和2年6月1日
-----------------	----------